

室點密 (瑟帝米 Istami・Siizibal Dizabul) — 達頭 (Tardu) — 都六 (Turxanth) — 射匯可汗。

② C. A. Macartney, On the greek sources for the history of the Turks (BSOS. II/2). O. Franke, Geschichte des chinesischen Reiches III.

③ 古代中國人は外國音の r を屢々 t 音で寫した。Tardu 達頭、

### 〔餘 白 録〕

伍甲小民楊賢學欠陸錢柒分玖釐柒毫

捌甲小民楊羨欠貳分貳釐捌毫

□ 水肆里

壹甲小民楊守約欠伍錢壹分貳釐

陸甲小民李全欠玖錢伍分伍釐

□ 香壹里

壹甲小民張領欠貳兩伍錢肆分陸釐

□ 甲小民宋招欠壹兩玖錢陸分柒厘柒毫

□ 甲小民朱萬寶欠貳錢參分柒釐

□ 甲小民李柄欠參兩伍錢柒分玖釐伍毫

Dharma 達摩、Tarkhan 達干の如くに。

④ 那は「房六切、音伏」(康熙字典補遺)とあり、普通的那音の外に、別に伏の音があつたことがわかる。伏(古音 hieh)。

⑤ 四四語中東洋語四一語(中、二一語トルコ語、二〇語非トルコ語)一〇語アルタイ語、一〇語アルタイ外七カ國語)を檢出している。

### 中國の文書

日本史では古文書という言葉をよく耳にするが、中國史ではあまり使われないらしい。しかし中國にも古文書はいくつも残っている。敦煌文書もその一である。明清の文書となれば、まだまだ發見される。いま京大の東洋史研究室で整理中の明代文書もまた貴重なるものである。ところでこのような文書が思わぬ所で見つかることもある。上に示すものがその一つで、名古屋の蓬左文庫に所藏する高岱の鴻猷錄(嘉靖四十四年刊)の中にある。その目次の最後の葉(五葉目)は表のみで、裏は空白であるが、その綴の中にこれがあり、おそらく明清の里甲における錢糧の欠欠に關する記録かと思われる。地域、時代などについてまだ十分に検討していないが、里甲の形式などが知られ、甚だ興味深いものなので、餘白をかりて紹介し、大方の教示を賜わりたい。 間野潛龍